

形 式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	悪性黒色腫の術前評価における MRI の有用性 -原発巣の厚さの測定による病期の推定-	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ()	
	ガイドライン上での目次名称	MMCQ6-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (I V)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID	1996151281	
	雑誌名	日本皮膚科学雑誌	
	雑誌 ID		
	巻	105	
	号	14	
	ページ	1837-1843	
	ISSN ナンバー	0021-499X	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1995	
	著者情報		氏名
筆頭著者		八田尚人	金沢大学医学部皮膚科学教室
その他著者 1		酒井秀彰	金沢大学医学部皮膚科学教室
その他著者 2		高田 実	金沢大学医学部皮膚科学教室
その他著者 3		竹原和彦	金沢大学医学部皮膚科学教室
その他著者 4		角谷眞澄	金沢大学医学部放射線医学教室
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	悪性黒色腫の術前評価における MRI の有用性を検討する	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	大学病院	
	対象者	悪性黒色腫患者 18 名	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず（1）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず（3）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず（15）	
	介入（要因曝露）	悪性黒色腫原発巣の厚さ、浸潤レベルを術前に MRI を用い評価し、切除後に得られた組織学的な厚さと比較した。	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	病期	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	2	tumor thickness	1.主要 2.副次 3.その他（2）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	爪の in situ の 2 例以外は MRI による評価が可能であった。 皮下組織への浸潤の有無については全例で評価が可能であった。 組織学的に得られた腫瘍の厚さと MRI により得られた腫瘍の厚さはよく相関した（ $R=0.963$ ）	
	結論	MRI の所見から推定した病期は術後病期と 16 例中 15 例が一致し、術前評価に有用であることが示唆された。2mm 以下の病変の測定は誤差が多く実用的ではない印象を受けた。組織の切り出し面と MRI のスライス面が必ずしも一致しないことが誤差を生じる要因となり、評価を慎重に行う必要がある。MRI における信号強度は撮影条件、他の要因の影響によって変化する。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	林 宏一	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ⅠⅤ） 例数が少なく症例集積研究あるいは記述研究とみられるが、MRI からの推定病期と術後病期の相関を検討しており、症例対照研究に準ずる優れた研究と評価した。	